

tant (...) que P と tant (...) com P

——『散文トリスタン』のばあい——

伊 藤 了 子

tant (...) que P と tant (...) com P の分離型と隣接型の働きを観察し、違いを記述する。

接続詞 que と com は, tant の他に質を表す si やその派生語 (ensi < en-si; au(tre)si < al-si) あるいは tel やその派生語 (au(tre)tel) および tel を含む表現(en tel maniere/guise 等)とも頻繁に共起するが、本稿では量詞 tant との共起のみを扱う。

現代仏語では *tant (...) que* は存在しても、*tant (...) comme* は一般的でない。後者は 15, 16 世紀にかけてどんどん減少し、17 世紀以来ほとんど出会うことはない (frantext)。しかし 13 世紀のテキストには両方が存在し、その用法は明らかに棲み分けが見られる。我々はデータを 13 世紀の散文トリスタンに限り、そこにおける働きを記述したい。

伊藤 (2003~7) で見たように、tant は「ここ／そこ／あそこ (こ／そ／あれほど) まで」という日本語で表すことができるように経路 (段階) と終点 (到達点) を含む *dynamique* な量詞であるという仮説を立てることができる。この場合の「量」とは本来の具体的物量だけではなく、もっと広い意味で空間量、時間量、程度 (抽象的) も含む。また、近くの先行文脈あるいは後続文脈上に「指示」対象があってもなくてもよい。近くの文脈にないときは遠くにあるかもしれない、遠くにもないときは周知 (*notoire*) の事柄のこともある。また文脈により「多い」ことを表す意味効果が出ることがあるが、常に多量とは限らず *seulement*⁽¹⁾ と共に用いられて *ce seulement* 「それだけ」の意

味になることもある。

接続詞の **que** は、直接目的節を導いたり、*car, afin que, de sorte que* 等の接続詞（句）が担うさまざまな働きをすることができる語である。

接続詞の **com** は、伊藤（2008）で見たように、ラテン語の *adv. de manière* 様態の副詞に起源を持つ、比較の **com** であり「～に匹敵する」という解釈ができる。

tant がこれらの語と共起するとき、どのような意味効果が生じるのだろうか。

I. 実例の提示と分類

はじめに分離型（**tant ... que, tant ... com**）、次に隣接型（**tant que, tant com**）の例を観察する。

1. 分離型

1. 1. **que P**

事態 **Q** は事態 **P** の生起まで継続する、つまり事態 **P** は事態 **Q** の終点を表す。意味の表れとしては **P** の動詞が直説法の場合は「結果」、接続法の場合は主語（事行主体）の意図の有無に関係なく「目標」である。

「結果」と同時に「程度」のニュアンスが強く現れることがある。そのとき事態 **P** は事態 **Q** の程度の上限を表す。

- （1）Or venés après moi.»Donc s'en vait devant, et li cevalier le vont si-vant après. **Tant ont alé** en tel maniere **k'il sont venu** a un estreit sentier ki avoit esté cevauchiés tout novelement. 「彼が先に出発し、その騎士たちが後を追う。P：彼らはこのように **tant** 進み、Q：ある狭い小道にやってきた」

Tant は文頭にあるが、その前の文（Or～après）は文全体も量化できないし、量化できる要素も含まない。（それに対し *en tel maniere* は先行文の事態

の様態を指す前方照応であるといえる。)したがってこの **tant** は文頭にあって前方照応ではなく後方に照応できる要素が期待される。ここではそれが **que P** である。P の動詞は直説法なので現働化され結果を表す。Q の事行が **aler** や **cevauchier** 等のばあい、P の動詞は直説法がほとんどで、Q が原因を表し、P が結果（進むとどこかに到達する）というタイプが一般的である。

- (2) Li rois Marc *amoit* **tant** la roïne Yseut **qu'il** ne le *pooit* oublier, ains en estoit tant a malaise que nus plus. 「Q: マルク王はイズー王妃を **tant** 愛していた, P: 彼は彼女を忘れることができなかった, それどころか誰にもまして苦しんでいた」

tant は Q の事態の程度が P に向かいそれに達する（つまり結果として P という事態が生じる）ことを表す。ここでは P の意味内容により **tant** は多量であることがわかる。Q と P（直説法）は原因と結果の関係にある。

amer(Q) > ne poeir oublier(P) > **ains** estre a malaise(R)

ains によって明記される事態 R の対立は P に対してであって、Q ではない（「忘れるどころかむしろ」）。一般に P の動詞が直説法で結果を表すとき、次の文につながるのは事態 P である。

次例のように **que P** が接続法のこともある。接続法なので P の事行は現働化されない（頭の中で考えたこととして表され、時には非現実の意味を帯びる）が、Q が原因で P がそれによって導かれる結果という関係は変わらない。

- (3) et **tant** li *plot* la compaignie de la dame **que** volentiers l'*eüst* li rois retenue, **mais ele le laissa** pour la parole de la gent et meïsmement pour ce qu'ele n'en fust blasmee. 「P: 奥方の同伴が **tant** 彼(U.)の気に入った, Q: 王(U.)は喜んで彼女を引き止めたであろうに, R: しかし彼女は立ち去った」

- (4) et quant mesire Lanselos fu apareillés comme du monter, il **ot tant grant doeil** du courous de sa dame la roïne **que** nus n'em *peüst* plus coureciés estre en nul maniere. 「P: 彼(ランスロ)は王妃の怒りにより **tant** 大きな悲しみを持っていた, Q: これ以上悲し

むことができる者はいないであろう」

tant Q ... que P の基本的構造は「事態 Q は事態 P の生起まで継続する」ことであり、意味効果は Q の事行と P の事行がどんなものかによって結果をあらわしたり、(結果を伴う) 程度の方が前面に出たりする。Q と P が原因と結果の関係にあつて P が直説法であれば実現したことが伝わるので結果と解され、接続法であれば単に目標とされる。また、Q の事行と P の事行が同じ(たとえば *amer/ amer*) のとき、P が結果(直説法)であることには代わりがないが「程度」の概念も強く表れる。

1. 2. com P

tant と共起するとき、com は事態 Q と事態 P の量(数・程度)の比較を表し、事態 P が比較の基準となる。

com P は伊藤(2008)で考察したように「P に相当・匹敵する」という意味である。tant は量の標識(意味は「そこまで」とすると、tant Q com P は「P に匹敵する量(数・程度)まで、Q である」あるいは「Q が P に匹敵する／比較できるのはそこまでの量に関してである」と言い換えることができる。そして比較であるからには Q と P の少なくとも一要素が異なることが前提としてある。たとえば事行は同じで、主語(事行主体)が異なる、あるいは過去と未来というような時期が異なる例が多く見られる(5)。

(5) *Onques a nul jour de sa vie ne prisa tant Palamidés com il le prise orendroit, ne tant ne le douta, quar ore le prise il plus assés qu'il ne soloit.*

Q と P は同一主語(-il), 同一目的補語(Palamidés/le)で、事行は同じであるが、時制が異なり(Q: prisa/ P: prise), その違いを状況補語(Onques a nul jour de sa vie 過去／orendroit 現在)が強調する。したがってこれは「彼が Palamides を賞賛する度合い」の過去と現在の比較の文であるといえる。主節 Q が否定文(「いまだかつて～ない」)であるため、意味効果としては最上級である。後続文 R(「というのはそうするのが常であった以上に(＝今までで最も)、今彼はパラミデスを評価しているから)」で前言を正当化して

いることから明らかである。

この例同様 **tant Q com P** は否定文が多い⁽²⁾。**tant Q com P** が否定文中や主節が否定の関係節中や目的節中で用いられると、文全体としては最上級や劣等比較 (MOINS) の意味になる。

(6) **Il n'oi piecha mais nouveles ki tant li plaist com fait cheste.**

「知らせをいまだかつて聞いたことがなかった, Q: 彼をそこまで喜ばせる, P: この知らせが喜ばせるほど」

今まで聞いた中でこの知らせは彼を最高に喜ばせたのである。

(7) (...) **je ne quit k'il eüst onques tant de courous com il avra a**

cheste fois. 「私は思わない, Q: 彼がそこまでの悲しみを今までに持ったとは, P: 今回彼が持つだろう (悲しみに) 匹敵するだけの」

これは, 今回彼が持つ悲しみの過去最高だと私は思うということである。

最上級の解釈を導く要素としては, **jamais a nul jour de ma vie, el monde, onques** 等, 全ての時間・空間を否定する表現や, 誰も／何も「存在しない／知らない」「見た／聞いたことがない」「... できない」といった事態の存在が挙げられる。それらが無い場合は「Q の量 (程度) は, P まで・ほどはない」つまり劣等比較 MOINS の解釈になる (8) (9)。

(8) **il n'est pas adonc tant courechies com il estoit devant,** 「その時

彼は以前ほど悲しんではいなかった」

悲しみの度合いに関する以前と今の比較で, 今のほうが少ないということである (MOINS)。

(9) (...) **li compaignon, qui le gardoient, dirent entr'aus qu'il ne cui-**

doient pas qu'il peüst tant faire d'un glaive comme il avoit fait.

「彼らは思っていなかった, Q: 彼がそこまで槍で戦うことができるとは, P: 彼が戦ったことに匹敵するだけ」 (MOINS)

否定文ほど多くはないが肯定文 **tant Q com P** も存在する。肯定文の場合, いくつかの文タイプが見られる。1) P の動詞が **poeir** のとき (10), 2) **tant com nus plus** 型 (生起数 8), 3) **tant de gent com il ot/vous estes** 型 (11)

(12) 等。

- (10) Chil Galehaus fu sires et princes de .XXVIII. roiaumes. *Cil* ama **tant** Lancelot **com** *nus* porroit amer autre, et en la fin morut cil Galehaut pour lui.

事行 (Q : amer/ P : poeir amer) 以外は、法と時制 (Q : ama/ P : porroit amer) も、事行主体 (Q : Cil (定)/ P : nus (不定)「誰かが」一般論) も目的補語 (Q : Lancelot/ P : autre) も異なっている。「彼がランスロを愛する量 (程度)」と「誰かが他の者を愛することができる量 (程度)」の比較。このような *pouvoir* は **tant** (「そこまで」) と共起する **com** P の中で使われると「可能性の限界 (極致) > 可能な限り」つまり最上級を表す効果がある。その結果「Galehaus は人が他者を愛することができる限界まで」という意味に解釈できる。P が *poeir* の例は他にも多くある。P が *devoir* の例は少数であるが「あるべき姿・理想形」が比較の基準になるのでやはり最上級の効果を持つ。

tant (...) **com** *nus* **plus** もその意味するところは最上級である。

tant de N com P は最上級ではないが、(11) (12) では下線のみで完結し、Q の他の部分は無関係で、2つの事態の比較にはならないので **tant** で十分である。

- (11) car il faisoit, entre **tant de gent com** *illuec avoit*, ses proueces si apertement que li rois meïsmes, qui illec estoit, le tenoit a miracle.
「P : そこにいた」「Q : そこまでの数の人々」>「ここまでの数の人々の中で」

illuec avoit (*il y avait là*) には *des gens* が省略されているが、「人々」のグループが2つあるわけではない。同一の存在である⁽³⁾。次例の **com P** は *preudommes* のみにかかる⁽⁴⁾。

- (12) Mais quant je voi que **tant de preudommes com** vous **estes** i ont failli, je ne sui pas de si grant cuer que je sour moi l'osaisse emprendre, 「そこまでの数の、あなた方のような立派な人が」

com が *savoir/dire/recorder/veoir* を従えるとき (生起数 10), これらは他

の場合と少し異なる。編者によるものであれ、**com** の前にヴィルギュルがあることが多い。また **tant** 等を伴わない単独の **com P** (たとえば **Signeur, fait il, je me sui fais connoistre a vous com vous savés.**) もある。したがってこのような **com P** は自立性が高いと考えられる。

- (13) , car il dist, (...), que s'il en i avoit nul ki abatre le peüst, il li quit-eroit sa damoisele, ki **tant** estoit bele, **con** vous meïsmes le **poés** encore **recorder**.

- (14) Je sui mesire Tristran de Loenoys, qui **tant** vous ai amé, **comme** vous **savés**.

その他, **tant** が *autant* の意味で用いられている例もごく少数みられる。

- (15) (...) que quant tu deüsses estre sergans Jhesu Crist tu devenis cevaliers au deable et **mist** li Anemis en toi **tant** de visces **comme** Nostres Sires i **avoit mis** de vertus car contre virginité et casteé herbergas tu luxure et contre humilité orguel (...).「汝はイエス・キリストの従者であるべきなのに汝は悪魔の騎士になった。そして
Q: (神の) 敵は汝の中に **tant de** 悪徳をいれた, P: 我主がそこ (汝の中) に徳をいれた」「というのは汝は, 処女性と貞淑に対し淫蕩を住まわせ, 謙遜に対し高慢を (住まわせている),」visces と vertus は同量。

このように **tant ... com** は使用域が非常に限られている。

2. 隣接型

tant com は前置例があるので接続詞句であることが明確である。

- (16) **Tant com li siecles duerra** sera parlé de cheste mort.「この世が続く間」

前置はこの例のように時況補語に限る。

それに対し, **tant que P** の前置例はあるとはいえない。〈**tant que P, Q**〉は2例のみ存在するが, **tant que** 本来の意味ではなく, **tant com** の意味なの

で、2章の混同の項で取り扱う。また、接続詞 *et* が先行する〈*et tant que* P〉は単独節であり、いくつか存在する。

- (17) *La nuit, quant il orent mengié, monta li estris entre les. VII. freres et le duc pour une siue fille que li. VII. frere voloient avoir a force. Et tant que li dus i fu ocis et uns siens fiex, et cele retenue par qui la mellee fu conmenchie.* 「その夜, (. . .), 7人の兄弟と侯の間で争いが起こった。7人の兄弟が侯の娘を強奪しようとしたからだ。そしてその結果公は殺された」

- (18) 8 I. *En tel maniere s'en vont ensemble tot le jor, et tant qu'il sont venu au soir au repaire au jaiaint.* 「こんな風に彼らはその日ずっと一緒に進んだ、そしてその結果その夜巨人の住処にやってきた」

〈*tant que* P, Q〉がなぜ存在しないのかは次節で考察する。

2. 1. tant que

2. 1. 1. 意味と法

tant que が従えるのは節のみである。P が直説法のときは結果節「Q, その結果 P」, P が接続法のときは「P するまで Q」の意味になる⁽⁵⁾。

典型例は Q の事行は継続相, P は点括相である。

- (19) *Mais pour ce k'il n'est ore mie liex ne tans de conter chest conte nous en tairom nous tant que liex et tans en venra, et donc le vous conterom de cief en chief ensi com il en avint.* 「Q: 黙っているよう, P: その場所と時がくるまで」>「その時 (つまり P 「時と場所が来たとき」) R: 我々は起こったとおりにあなた方にそれを話そう」

後続文の *et donc* は Q (nous en taire) ではなく, P (liex et tans en venir) を受け, R (le vous conter) は P の事態に続く。P (直説法) のときの基本的図式は Q>P>R である。次の例文も同様。

- (20) *Ensi chevauche Dynadans entre lui et ses esquiers or cha, or la, par la forest, tant que grant pieche de la nuit fu ja alee. Et lors*

li **avint** en tel guise k'il s'embati tout droit sour le roi March et
sour le cevalier ki si durement se compaignoit, com je vous ai dit.
Q : cevauchier (継続), P : aler (完結型) + 前過去 (時制による完了) + 副詞
(完了) ja 「すでに」

tant que P (接続法) も多く存在する。Q が命令文、否定文のばあいが多いが、絶対条件ではない。

- (21) , **dist** il a soi meïsmes qu'il descendroit et **se reposeroit** une piece
du jour, **tant que** la chaleur **fust passee**. Et **lors descent** et met
son glaive (...) 「Q : 馬を降りてしばらく休もう, P : 暑さが過ぎてしま
うまで」

この **tant que** の意味は接続法なので結果に解するには無理がある。「～まで」という目標 (継続事態 Q の終点の標) の解釈が自然であろう。後続文 (R) の **lors** は **dist** 「言った」ときを指し, 事行 **descent** 「馬を降りる」のは, **dist** に続く。

- (22) Puis que nous nous sommes mis ensamble en compaignie entre
moi et vous, au mains **demorom** s'il vous plaist ensamble **tant
que** aventure nous **departe** ; et **lors nous departirom a
hounour, ensi com cevalier errant doivent faire**. 「Q : 少なくとも一
緒にいきましょう, P : 冒険が我々を引き離すまで」

後続文 R の **lors** (テーマ) は先行文 P (焦点) を受けている。しかし事態 R 出来事 (nous partir) は, P (aventure nous partir) ではなく Q (demorer) に続く。

- (23) (...), or **demourés** ichi un poi **tant que** je **soie revenus**, et je **re-
venrai** tout maintenant. 「Q : 少しここにいてください, P : 私が戻るまで」

後続文 (R) 「私はすぐに戻って来ます」は, もし P (je estre revenus) が直説法なら必要ない。つまり, P (接続法) のときの基本的図式は, Q (tant que

P) > R である。そして **tant que** は「～まで」という意味で接続詞として機能しているといえる。

以上確認したように、結果 (ind.) にしろ「～まで」(subj.) にしろ **tant que** は事態 **Q** が **P** まで継続することを表し、**P** は終点のマーカーなので、文頭とは相性が悪い。これが **tant que P** の前置例がないことの理由であろう。

2. 1. 2. tant Q que P と Q tant que P (分離型と隣接型) の関係

下の例文 c. の **tant que** は接続詞句といえるだろうか。vint は ind. なので「～まで」の解釈は排除される。**P** は結果を表し、後続文 (**R**) に動作 (出来事) がつながる。**Dont** は「その時」つまり「着いたとき」で、**Q** の **cevaucha** を受けるのではない。**Q : cevaucha > P : vint > R : dist**

a.) **puis cevauche tant par ses journees k'il vient** a Camaaloth

b.) **Tant cevaucha puis** li rois Boorth **par ses journees k'il vint** a la mer

c.) il **cevaucha puis tant k'il vint** u Marés. **Dont dist** au vallet ki (...).

分離型 a. と b. は **k'** (=que) の左に **tant**, **cevauchier**, **puis**, **par ses journees** という4つの共通要素を含む。c. は **par ses journees** を除く3つを a. b. と同じくする。**cevauchier** の主語に関しては a. 表記なし, b. **li rois Boorth**, c. **il** であり, a. と c. がより近いといえる。

c. は、語順に関して、a. や b. のヴァリエントに過ぎず、**tant** と **que** は偶然隣り合わせになった感じがする (**puis** を **tant** と **k'** の間に入れると **puis k'** で「～以来」の意味になる可能性が出てくる。**puis cevaucha il** にしても **tant k'** の順は変わらない)。

たとえ **tant** と **que** が隣接していても、事態 **Q** と事態 **P** (ind.) が原因と結果の関係にあるとき、そして動詞の直後やすぐ近くに **tant** があるときは特に **tant** は **Q** の事行との結びつきの方が強く感じられる。このような例は他にも多く見られる (24) (25)。

(24) Et li rois les **pria tant**, et sa fille autresi, **que il remesent** tout celui jor ausi com a force.

(25) Si l'em **pria tant qu'il descendi**.

しかし次例のように Q の事行と tant が離れているときは結果を表す接続詞句 tant que とみなすことができよう。

- (26) Ensi **chevauche** Dynadans entre lui et ses esquiers or cha, or la, par la forest, **tant que** grant pieche de la nuit **fu ja alee**. 「その結果～」

tant que の接続詞句としての市民権は完璧ではないようである。

2. 2. tant com

Q tant com P の com が従えるのは節とは限らないが、節の場合 P の事行タイプは継続を表すものが一般的である。Q が否定文の場合 P は接続法になることが多い。

典型例として 2 つの事態 (Q と P) の同時生起が挙げられる。

- (27) Icele pais ne sera ja **tant com** je aie la vie u cors. Je mis franchise en Cornuaille et chele franchise i tenrai je **tant com** je vivrai, se je puis.»

「Q：その平和は存在しないだろう、P：私が生きている間」,

Q：状態 (継続)；P：(継続),

「Q：その高貴さを私はそこに保つであろう、P：私が生きている間」

Q (継続)；P：(継続)

しかし、隣接型 tant com P 578 例中、P の動詞が **poeir** であるものが 355 例あり、tant com P 全体の 61.4% を占める。tant com poeir も同時生起で説明できるのだろうか。また、2 つの事態の同時生起というのはすべて上例のような継続・継続なのであるだろうか。この 2 点に関して以下で観察する。

2. 2. 1. tant com P の意味

もともと tant は量詞なので、接続詞句 tant com は量が同じことを表す。量は上で述べたように、広い意味で物量、程度、時間・空間量等を含む。例を観察すると Q と P の動詞の意味が tant com P の意味に係わっていることがわかる。

- a. P の動詞が「時間概念」と結びつきやすいもの：vivre, estre (所在), de-

morer, sejourner, durer, veoir 等

(28) ne ja ne l'oubliera **tant com il vive**.

b. P の動詞が「程度概念」と結びつきやすいもの：peser, grever, chaloir, amer, doter, loer 等。特に Q の事行と P の事行が同じ（faire 代動詞を含む）ことが多いので、それが「程度」を表す必要条件かも知れない。

(29) – Sire, fait il, oïl, sans faille, si ne fis je oncques cose dont il me **pesast tant com il fait** de lui!

(30) «Ne il **ne me calut de ma honte tant com il fait** pour mon frere, 「Q：私の恥に関しては重要ではない、P：私の兄にとってそうである（＝重要である）ほどには」

(31) Certes, se je ne l'**amaisse tant com je l'aim**, je fusse mauvais et faillis conme sont tout mi parent.「私が（現に）彼女を愛しているだけ（ほど）彼女を愛していないとすれば、．．．」Q の事行によって「愛している間、限り」の意味にもなり得る。

(32) mais on ne le looit pas **tant com** vous le loés 「～ほどは」

c. P の動詞が「物量の概念」と結びつきやすいもの：mangier, boire 等

(33) «Quant tu orras que jou demanderai a boire, si en aporte a boire a Lancelot plainne demie coupe ne nule autre ne li **donne tant com** il voeulle **boire**.» 「彼が飲みたがるだけ」

ここでは事態 Q と事態 P の関係から「いくらほしがっても」「たとえ」のような譲歩のニュアンスが副次的に感じられる。

d. P の動詞が poeir, vouloir, devoir で不定詞を伴う場合はその不定詞によって意味が限定されより明確になる。不定詞を伴わないときは、Q の意味が決め手になったり、あるいは poeir の場合多くは意味を限定せず、「能力（可能）の限り」を表す。

(34) on lour **donne bien a mengier tant com il veulent** ; 「彼らが望むだけ」、Q：「食べ物を与える」物量

(35) , ains **menga del pain et de l'eve tant com mestiers li fu**, ne

d'autre cose ne goustá, (...).「必要なだけ」Q:「(彼は)パンを食べたそして水を」物量

poeir の生起例はすべて人称主語を伴うので主語（事行主体）の能力を表すと考えてよい。

(36), (37) はどちらも **crier** の「程度」つまり「声の大きさ」を表す。時間的長さの解釈は不自然であろう⁽⁶⁾。

(36) et crie **tant com** il puet crier : «Or tost as armes, (...)

(37) , li rois Hoël (...) leur crie **tant com** il puet : «Signeur cevalier, (...)

(38) は inf. を伴うので速さの程度であることが明示されるが, (39) はただ「能力（可能）の限り」を表すだけである。

(38) (...) et **s'adrece** vers le chevalier **tant com il puet du ceval traire**, le glaive baissié.「馬から引き出すことができるだけ」>「全速力で」

(39) Mesire Tristrans saut esranment avant et **s'adrece** vers le gaint, **tant com il puet**, l'espee entesee, (...).

inf. を伴わない **tant com il peut** は使用率が広い, 便利な表現である。

2. 2. 2. 2つの事態の同時生起

2つの事態の同時生起といっても必ずしも典型例として挙げた(27)のような継続・継続の組み合わせとは限らないようである。ごく少数ではあるが点括弧の事行との組み合わせも見られる。

a. 点 Q と線 P

このばあい, **tant com** は «*pendant que*» の意味になる。

(40) **Dites le moi tant com** je sui avoec vous.「私があなたと共にいる間に私にそれを言ってください。」

(41) En tel maniere, ce dist li contes, **avint** a monsigneur Tristran de cele aventure de Daguenet **tant com il fu** en sa forsenerie.「トリスタンが正気を失っていたときダグネの事件が彼に起こった」

b. 線 Q と線 P

この組み合わせが一般的である。そして 2 本の線の長さは同じである。

- (42) Je vous pri, fait li rois March, que **tant com** je **serai** en vostre compaingnie, que vous **ne dites** mon non a nul home du monde, ne connoistre ne me faites. 「私があなたと一緒にいる間は、誰にも私の名前を言わない（明かさない）と」

「言わない」というのは、dire という事行が起こらない状態のことである。

- (43) ensi con je vous ai dit, **garda** il le pont, **tant com** il **vesqui**, et li avint si bien que **nus n'i vint**, **tant com** il **garda** le pont, que il a mort ne mesist.

さらに、b. の「線 Q と線 P」ばあい P が表す意味が問題である。主節が否定文のときは単なる同時性「P の間」(«*aussi longtemps que*») よりも「P の限り」(現仏語の «*tant que*») の意味に近い⁽⁷⁾。

- (44) Cele ne puet il oublier pour nule aventure du monde ne **ja ne** l'oubliera **tant com** il vive. 「彼は何があっても彼女を忘れることはできないし、生きている限り決して彼女を忘れない」

他方、「P の間 (に)」であって、「P の限り」ではないものもある。

- (45) Et pour ce qu'en sa compaingnie estoient les. IIII. bestes, devons nous entendre les. IIII. Euvangelistres, les. IIII. boin eürees personnes qui mirent en escrit partie des oeuvres Jhezu Crist que il fist **tant com** il fu entre nous en guise d'onme terrien, dont onques mais cevaliers ne pot verité savoir si bien conme je le vous ai contee et devisee, (...) 「イエスキリストが地上の人間としてわれわれの間にいた間に彼が行ったさまざまな行為. . .」

また、**tant com** 自体は同時性しか表さなくても、2 つの事態がどういう関係にあるかによって「対立」や「譲歩」のニュアンスが生じるものもある (46) (47)。

- (46) Or se repent mout chierement de ce k'il ne creï Audret et k'il ne

mist monsieur Tristran a la mort **tant com** il en avoit le pooir.

「その力がある間にトリスタンを死に至らしめなかったこと」>「のに」

- (47) Et certes, de blasmer Amours ne porroit venir nul bien a nul cevalier du monde **tant com** il bee a venir a hounour, ne je ne quit que nus hom peüst a grant cose venir pour nule aventure du monde s'il n'amoit par amours. 「愛の神を咎めることからはいかなる騎士にもよきことは訪れない、彼が名誉にいたることを熱望するとき」>譲歩「彼が．．．を望んでも」

2. 2. 3. tant Q com P と Q tant com P (分離型と隣接型) の関係

隣接型は、意味が分離型とは明らかに異なり、接続詞句として機能しているといえる。

- (48) «Sire, fait mesire Tristrans, nous avons hui **tant** cevaucié **comme** vous **savés**, et vous sai bien a dire qu'il est hui mais bien tans de herbergier. 「P：あなたが知っているように」

- (49) , car il n'avoit en tout le monde si poissant prince ne si hardi qui osast Cornuaille asaillir, **tant com** il i **seüst** le cors de monsieur Tristran tant seulement. 「P：彼が、トリスタンだけがそこにいることを知っている限り」

II. 棲み分けと混乱と

ここでは、第1章で観察した結果に基づいて、1) **tant que** と **tant com** はその機能に棲み分けがあること、そしてそれは確かであるが、2) 混乱も少数ではあるが見られることを例示し、最後に **tant que** と **tant com** についてまとめる。

1. tant que と tant com の棲み分け

意味の観点から、**tant que** と **tant com** は明らかに異なることを示す例を

いくつか挙げる。

(50) Quant il voit que mesure Tristrans s'en vait, il le **regarde tant com il le puet veoir**.「彼の姿が見える間」

(51) Quant la damoisele vint entre les cevaliers, ele **regarde** sus et jus, **tant que ele voit** le roi Artu, si le connoist si tost com ele le vit, car ele l'avoit veü autre fois. 結果「彼女はアーサー王の姿を捉える(見る)」

(50) の P は *regarder* の継続時間を表すのに対し, (51) では事行 *regarder* (視覚で捉えようと意識を集中する) と *veoir* (視覚で捉える) は原因と結果の関係にある。ここでは *tant com* と *tant que* がそれ自体で意味の違いを担っていることが明らかである。

savoir に関しても *tant com savoir* のときは「知っている」状態を表し (52) (53), *tant que savoir* のときは知らない状態から知っている状態への「変化」つまり情報を取得することを表す (54)。その違いの標が *tant com* と *tant que* である。

(52) «Sire, se je de la harpe **seüsse tant comme vous savés** 「あなたが知っているだけ」 *savoir/ savoir*

(53) mesure Tristrans **ne parla onques si vilainnement** sour vos a jour de sa vie, ne ne **fera tant comme il sace** que Palamidés soit si poissans cevaliers com il est.»「彼が知る限り」

(54) «Sire, vaurés vous un poi **demourer** çaiens **tant que nous saçons** pour coi il font si grant doeil par cest castel? 「我々が知るまで」

さらに文脈の観点からも相違は明らかである。事態を前景（出来事）と背景に分けて考えると, *tant com P* は出来事ではないが *tant que P (ind.)* は出来事である。

つまり, *Q tant que P* の P (ind.) は, その後続文 (R) とつながることができる ($Q > P > R$) が, *Q tant com P* の P はできない ($Q > R$)。

- (55) Quant il voit que mesure Tristrans s'en vait, il le **regarde tant com il le puet veoir**. Quant veoir ne le puet mais, il **se laisse caoir a tere**, ...

Q : le regarder > R : se laisser caoir a tere

- (56) Quant il connurent que li chevalier de Cornuaille aloient en tel maniere le camp guerpissant, il **fierent** adont sour aus mout aigrement. **Tant com il pueent**, les **damagent**. Il lour **moustrant** bien tout apertement k'il lour sont mortel anemi.

O : il ferir > Q : (il) les damagier > R : il lour moustrer

- (57) Quant la damoisele vint entre les chevaliers, ele **regarde** sus et jus, **tant que ele voit** le roi Artu, si le **connoist si tost com ele le vit**, car ele l'avoit veü autre fois.

Q : regarder > P : voir > R : conoistre

ここまで見てきたように **tant que** と **tant com** は、意味の上でも文脈上の出来事の観点からも、さらに接続詞としての完成度の点でも異なることが明らかである。しかし、現代フランス語には **tant com** は存在しないこと、また現代語の **tant que** は古仏語の **tant com** が担っていた意味「～する限り」「～する間」を表し、古仏語の **tant que** に相当する現代語は *jusqu'à ce que* (方言で *jusqu'à tant que*) や *de sorte que* などであることが示すように、時代を経るにつれて **tant com** は廃れていく。そして我々のテキストでも多少の混乱は見られる。

2. tant (...) que と tant (...) com の混乱

分離型では、P が **nus plus** のとき、**que** と **com** の両方が見られる。

- (65) 138. Quant Parcevaus et Boors virent que Galaad estoit trespassés, il en furent **tant dolant que nus plus**, et (...). Li pules del país en fu **tant dolans comme nus plus**, car il amoient Galaad merveilleusement, (...).「誰よりも悲しんだ」

すぐ近くなのに同じ意味で **que** と **com** が見られる。この **nus plus** は省略形であることが次の例文の存在によりわかる。

- (66) *et quant mesire Lanselos fu apareillés conme du monter, il ot tant grant doeil du courous de sa dame la roïne **que nus n'em peüst plus** coureciés **estre** en nul maniere.* 「P: 彼 (ランスロ) は王妃の怒りにより **tant** 大きな悲しみを持っていた, Q: これ以上悲しむことができる者はいないであろう」

この文では **que** が用いられている。**tant ... que nus plus** の生起数は全部で 10, **tant ... com nus plus** の生起数は 7 である。これらの間に違いはみられないので **que** と **com** の混同とみなすことができる。

隣接型では、まず、次例 (58) の **tant com P** の **P** が **venir** であることは違和感がある。**sont venu** は到着地点を表す場所補語「弩の飛ぶ距離の 2 倍の所にある林」を伴うので、明らかに「到着した」という意味で完了を表し量の概念とは無縁である。

- (58) 51. *En teus paroles **vont chevauchant, tant com** il sont venu pres de l'arbroie a deus arballestrees, **et lors voient** tout apertement les .VI. escus des chevaliers, pendus as arbres.*

Q: **vont chevauchant** (継続) > P: **il sont venu** (点的, 完了) > **et lors R: voient**

lors 「その時」とは **P** の「着いた」ときで、**Q** の「馬を進めているとき」ではない。

tant que がふさわしいところ **tant com** となっているのはこの 1 例のみである。逆に **tant com** であるべきところ **tant que** となっている例はもう少し多い。

- (59) *Et sachiés bien vraiment que, **tant que je l'eüsse a mon col** je ne poroie faire mauvaistié pour nule aventure du monde, ne je ne poroie a mon escient emprendre nule cose que li cors d'un seul cevalier peüst achievever que je ne menasse a boine fin, **tant com je***

portaisse l'escu. 1) 「私が首に盾を架けている間・限り私は悪行をできない」, 2) 「私が盾を持っている間・限り, 一人の騎士が成し遂げるべきことを行わないではない」

このようにすぐ近くにあるのに同じ意味で **tant que** と **tant com** を使っている。

(60) *Que vous diroie je? Cele nuit furent laiens mout aaisié et servi et honneré tant que li preudom de laiens pot. Palamidés mengüe mout bien, et ausi fait mesire Tristrans.*

li preudom de laiens pot (servir et honnerer) 「できる限り」の意味が期待されるので, **tant com** が適切である。結果の解釈は後続文とのつながりからも不自然である。

(61) *Et bien fu verité sans doute que, tant que li lingnages le roi Ban se tint au roi Artu et il demoura laiens, il n'ot si hardi home u monde ki encontre le roi Artu empresist guerre.* 「バン王の一族がアーサー王に愛着し, そこにとどまる間・限り, アーサー王に戦争をしかけるほど大胆なものはこの世にいなかった」

se tenir も demourer も継続相なので「～まで」とはなじまない。時の状況補語だから前置が可能である。次例も同様である。

(62) *Cornuaille estoit bien seüre tant que li boins Tristrans i demouroit.* 「トリスタンがいる間・限りコーンウォールは実に安全であった」

(63) *, et que jamais ne s'em partiront tant que sa fille i demeure.* 「彼らは絶対出発しない, 彼の娘がそこに滞在する間・限り」

(64) *Si em parlerent assés ensamble tant que li mengiers dura, et li rois meïsmes en conmencha a parler a chiaus qui plus pres de lui estoient et dist: 「食事が続く間, 彼らは大いにそれについて話し合った」*

結局, 違和感を抱かせるのは, **tant com** と点括相や完了の組み合わせと **tant**

que と継続相の組み合わせである。

III. むすび

我々のテキストではそしてその時代には **tant que** を用いて事態 **Q** の継続の終点を表すのが一般的であるが、そのことにはどうも無理があるようである。これまで見たように **tant** は事態を量化する働きを持つ。他方 **que** は結果、目的、前言の正当化 (*car* の意)、目的補語節を導く等さまざまな役割を果たす多機能語である。多機能というのは無機能の裏返しで、**que** は無色で唯一その確かな働きは節を導入することである。したがって **tant** が **Q** の中にあって **Q** を量化し、**que P** がその終点となるのはそれぞれの語の働きに応じて自然である。しかし **tant** が **que** とくつつくと、無色である **que** より **tant** の方が個性が強いの、理論的には **tant** は **que P** を量化することになり、**P** の事態が継続相であることが求められるのに、実際は点括相であるからである。

このことは **tant que** (「～まで」) が現代語では「～する間・限り」の意になり、**tant que** (「～まで」) と **jusc'a tant que** が現代語の *jusqu'à ce que* に取って代わられたことと無関係ではないであろう。

tant com が消滅する理由に関しては、**tant** だけの問題ではなく質の系統の **si, ensi, ausi** 等とも関係するので、稿を改める。

注

- (1) **tant seulement** の **tant** が **seulement** の強調詞であることもある。
- (2) Dans l'expression de la comparaison, le second terme est introduit par *com(e)* pour l'égalité, par *que* pour la comparaison différentielle. (Moignet 271). 優等・劣等比較では **que** が用いられるが、同等比較では **com** が用いられる (**ausi/autresi, autant/autretant com**)。われわれのテキストにおいても概ねそのとおりであるが、**au(tre)tant (...) com** の生起数は多くはない。否定文中では **au(tre)tant** より **tant** が好まれるが、**au(tre)tant** と **tant** の関係については稿を改める。

- (3) au(tre)tant なら (1) の人々と (2) の人々は違う人々になる。
- (4) au(tre)tant だと意味が変わってしまう。
- (5) 継続事態 Q の終点の標には *jusqu'a tant que* (*jusc'a, jusqu'a, jusques a, dusqu'a, dusc'a, dusques a*) という表現が存在する (生起数 30)。
- (6) *crier* に関しては不定詞を伴うもの (*crier tant com poeir crier*) 35 生起に対し, 伴わないもの (*crier tant com il puet*) 10 生起である。
- (7) Franckel (1989) 参照。*tant que P* は non-P を意識する。

資料

Roman de Tristan en prose, 1987 版 *Corpus de la Littérature Médiévale, En langue d'oïl des origines à la fin du XVe siècle, Prose narrative — Poésie — Théâtre*, Champion Electronique 2001

参考文献

- 藤田知子 (1996): 「tant における程度・結果・比較」, 『フランス語学研究』第 30 号, pp. 1-13.
- 小熊和郎 (1997): 「高い程度の表現について」『フランス語を考える, フランス語学の諸問題 II』東京外国語大学グループ《セメイオン》三修社.
- 伊藤了子 (2003): 「古仏語の tant——tant aler から出発して——」『人文論究』第 53 巻第 3 号, pp. 102-118, 関西学院大学文学部人文学会.
- 伊藤了子 (2004): 「古仏語 tant dire の tant——13 世紀散文『トリスタン物語』の例から——」『人文論究』第 54 巻第 3 号, pp. 87-103, 関西学院大学文学部人文学会.
- 伊藤了子 (2005): 「古仏語 tant の位置とその意味」『人文論究』第 55 巻第 3 号, pp. 57-73, 関西学院大学文学部人文学会.
- 伊藤了子 (2007): 「*Le Roman de Tristan en prose* における *amer* と *tant*」『人文論究』第 57 巻第 3 号, pp. 82-99, 関西学院大学文学部人文学会.
- 伊藤了子 (2008): 「『散文トリスタン』における COM」『人文論究』第 58 巻第 3 号, pp. 43-57, 関西学院大学文学部人文学会.
- Culioli, A. (1992): “Un *si gentil jeune homme!* et autres énoncés” *L'information grammaticale*, no. 55, pp. 3-7.
- Franckel, J.-J. (1989): *Etude de quelques marqueurs aspectuels en français*, Droz.
- Le Goffic P. (1991), Comme, adverbe connecteur intégratif: éléments pour une description. *L'adverbe dans tous ses états*, travaux linguistiques du CERLICO
- Thierry Ponchon (1998), Les emplois de *com (e)* en français médiéval, *Du per-*

cevoir au dire, L'Harmattan, Paris.

Gaffiot F. : *Dictionnaire illustré Latin Français*, Hachette, Paris, 1969

Godefroy F. : *Dictionnaire de l'Ancienne Langue Française du IXe au XVe siècle*,
Champion Electronique 2002

Hasenohr, G. (1993) : *Introduction à l'Ancien Français de Guy de Lage*, Sedes.

Moignet G. (1973) : *Grammaire de l'ancien français*, éditions Klincksieck.

Ménard F. (1988) : *Syntaxe de l'ancien français*, éditions Bière.

Picoche J. & Marchello-Nizia Chr. (1994) : *Histoire de la Langue Française*,
Nathan.

——文学部教授——